



モラルジレンマと功利主義

東京大学大学院医学系研究科
児玉聡

※:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

1. モラルジレンマ



ティム・バートン(Tim Burton)監督
ジョニー・デップ(Johnny Depp)主演
『シザーハンズ』“Edward Scissorhands”
1990年 アメリカ

http://en.wikipedia.org/wiki/Edward_Scissorhands

「よし、ちょっと倫理の勉強だ。君が道を歩いているとする。するとスーツケースいっぱい詰まった札束が落ちているのに気づく。君は一人きりで、あたりには誰もいない。さて、君はどうすべきだろう？」

- A. お金を自分のものにする。
- B. そのお金で友人や大切な人にプレゼントを買う。
- C. 貧しい人にあげる。
- D. 警察に届ける。



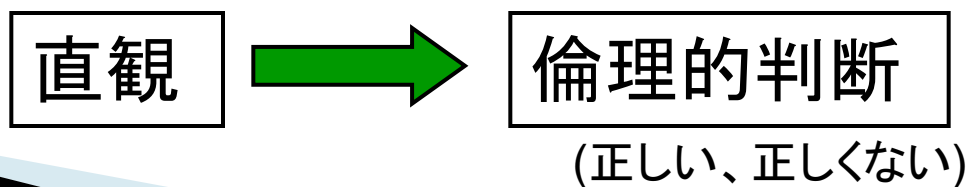
- ▶ キム「それはよりステキなことじゃないかしら。わたしだったらそうすると思うわ(I mean, that's the nicer thing to do. That's what I would do.)」
- ▶ キムの父親「いま問題にしているのはステキかどうかじゃなくて、やるべきこととやっちゃいけないことなんだ (We're not talking nice. We're talking right and wrong.)」



But what's the right thing to do?
And how do we know it?

倫理は理屈じゃない？

- ▶ 倫理は理屈とか合理性の問題ではなく、**直観**(直感)でわかる
- ▶ **直観**(intuition) = **直**ちに**観**てとる
 - 推論を経ないで直接答えにいたる
- ▶ 倫理的直観の特徴
 - 直接性、自明性、ときに強い感情を伴う





モラルジレンマ (moral dilemma)

- ▶ 「友人を大切にすべきである」「困っている人を助けなければならない」など、われわれが直観的に正しいと考える倫理原則が衝突する状況

飛行機墜落の10週間後に生存者を発見

1972年

ウルグアイ空軍機571便遭難事故

http://news.bbc.co.uk/onthisday/hi/dates/stories/december/22/newsid_3717000/3717502.stm

フランク・マーシャル(Frank Marshall)監督
イーサン・ホーク(Ethan Hawke)主演


『生きてこそ』 “Alive”

1993年 アメリカ

[http://en.wikipedia.org/wiki/Alive_\(1993_film\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Alive_(1993_film))

チリ空軍は、2ヶ月以上前にアルゼンチンのアンデス山脈に墜落した飛行機の中から、14名の生存者を発見した。生存者がいるという知らせは、助けを求めて10日間山を歩いて人のいるところにたどり着いた二名の生存者によってもたらされた。

救助されてから四日後、サンティアゴの新聞が、生存者たちは飢餓を避けるために死んだ人の肉を食べたと報道した。二日後、生存者たちは、新聞の報道は事実であると発表した。



「判事がヤミを拒み栄養失調で死亡
遺した日誌で明るみへ」

1947年11月5日朝日新聞

「経済事犯を裁く判事の身だから、といって一切の食糧のヤミ買いを拒否、餓死した判事があった。東京地裁の山口良忠判事で当時三十七歳。裁判所内で栄養失調のため倒れ、家族が佐賀県の実家に運んだが、四十数日後に亡くなった。二十二年十月十一日のことであった。」

1981年10月12日朝日新聞



モラルジレンマ (moral dilemma)

- ▶ 「友人を大切にすべきである」「困っている人を助けなければならない」など、われわれが直観的に正しいと考える倫理原則が衝突する状況
 - 「何が何でも生き延びるべきである」「人を食べてはいけない」「法を守らなければいけない」
- ▶ このような状況になると、直観に訴えるだけではうまくいかない

倫理的問題を合理的に考える

R.M. Hare

1919-2002

著作権の都合により、
ここに挿入されていた
画像を削除しました。

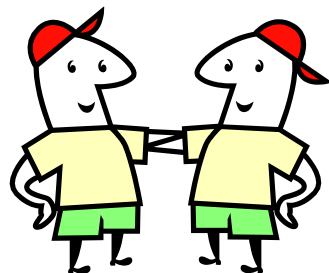
道徳哲学[倫理学]の目的は、道徳的問題についてよりよく—すなわち、**より合理的に**—考える方法を見つけることである。

合理的=rational (←ratio),
reasonable (←reason)

倫理的判断の一貫性

▶ Treat like cases alikeの原則

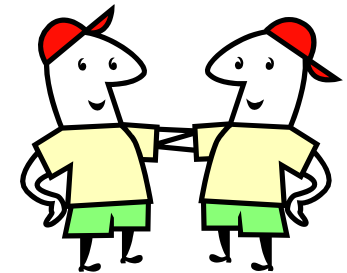
- 同様のケースは同様に扱え
- 双子の息子の一郎と次郎の例
 - 一郎が試験でよい成績を取ったので、小遣いを特別にあげた
 - 次郎も学校でよい成績を取った→どうする？



倫理的判断の一貫性

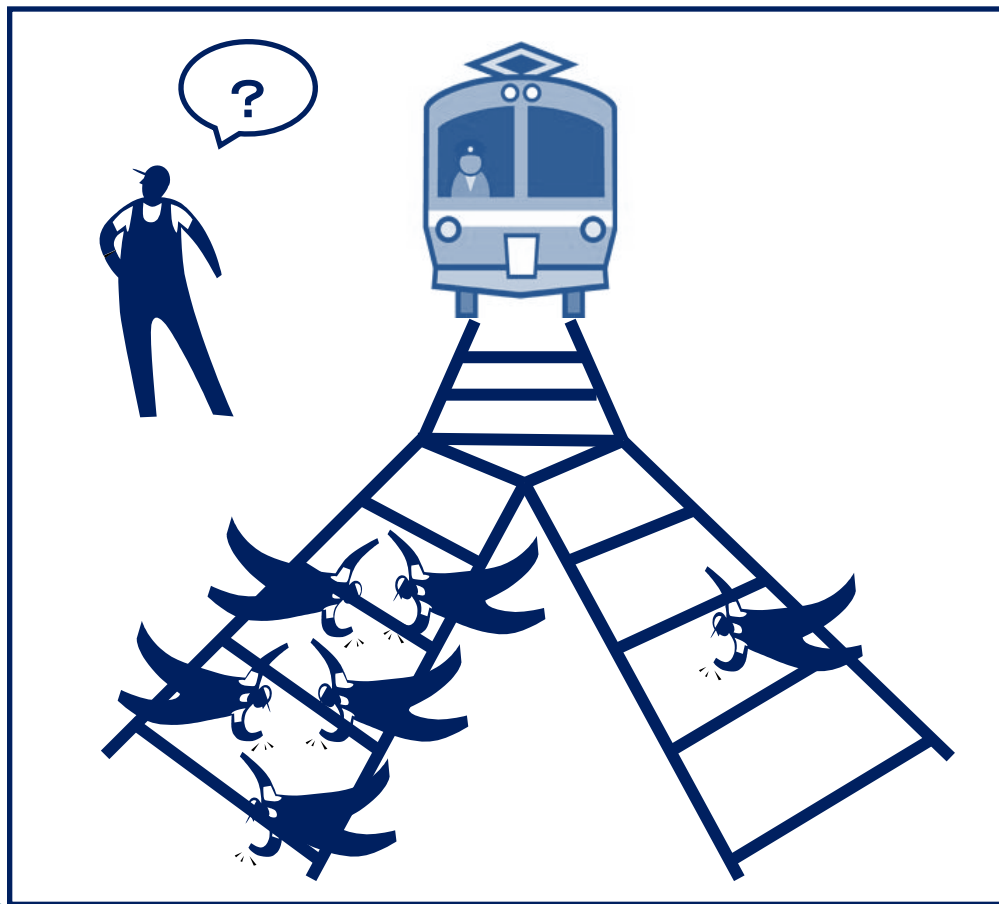
▶ しかし、「同様のケース」とは何か？

- まったく同じケースは存在しない
- どの違い(属性)を重要とみなすか？
 - ・ 年齢、性別、功績、その他



- ▶ 道徳的に重要な違い (morally relevant difference)
- ある二つのケースに道徳的に重要な違いが一つも見出されないならば、同様の判断をなすべき

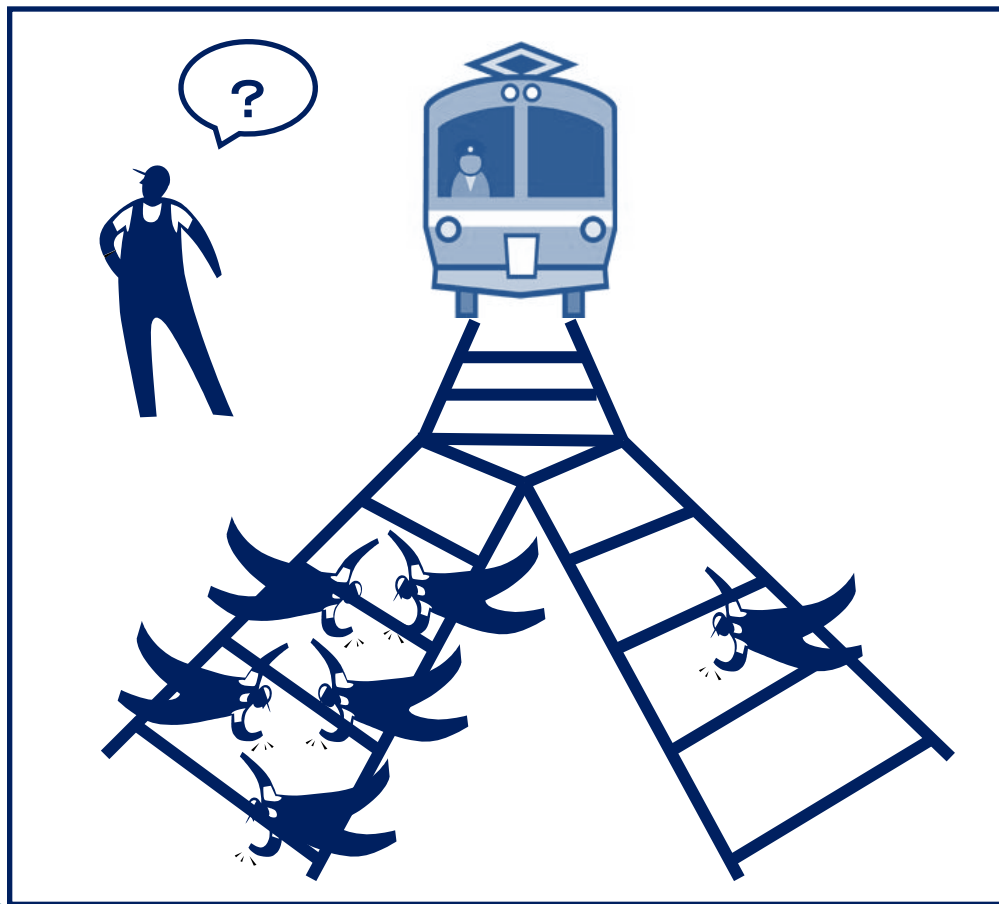
トロリー問題1



トロリー(路面電車)が暴走している。わたしが何もしなければ、線路に縛り付けられた五人の人々はひき殺される。もしわたしがスイッチを切り替えて、トロリーを別の線路に引き入れれば、五人は助かる。ただし、別の線路に縛り付けられている一人がひき殺されることになる。わたしはスイッチを切り替えるべきか。

1. 切り替えるべき
2. 切り替えるべきでない

トロリー問題1'



途中までの状況は1と同じで、ただし、別の線路に縛り付けられている一人は、自分の家族である。わたしはスイッチを切り替えるべきか。

- 3. 切り替えるべき
- 4. 切り替えるべきでない



思考実験 (thought experiments)

- ▶ 想像上の事例を用いて、議論の検証や概念の検討を行う。こうした事例は「思考実験」と呼ばれ、多くの科学的な実験と同様、理論を検証するためにデザインされている。(T. Hope)
 - 単なる心理テストではない
 - たとえば倫理的判断の一貫性 consistency をテストする
 - 何が道徳的に重要な事実と考えられているかをあぶりだす

2. 功利主義と公平性の問題



功利主義 (Utilitarianism)



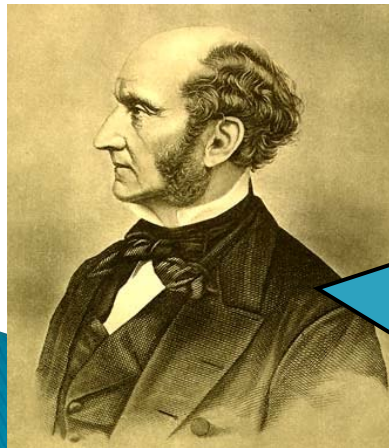
Wikipediaより転載
http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Jeremy_Bentham_by_Henry_William_Pickersgill_detail.jpg

ベンサム (1748-1832)
最大多数の最大幸福

最小不幸社会



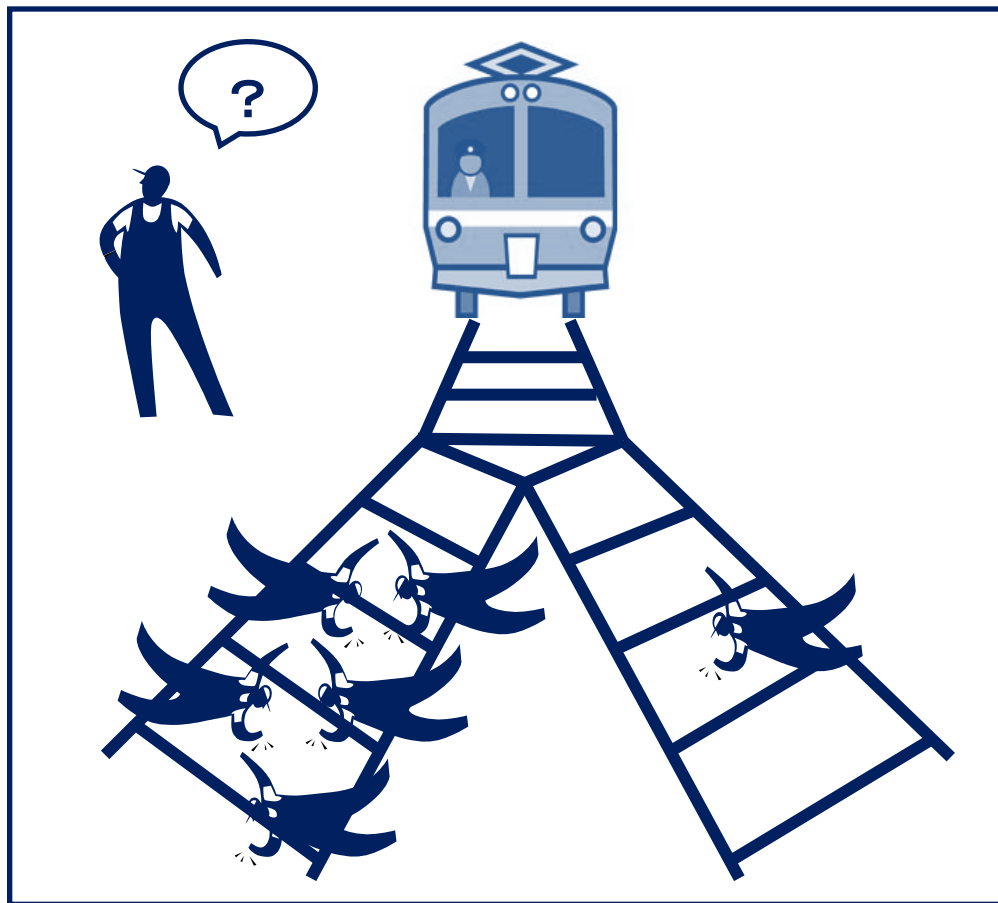
Copyright by World Economic Forum
swiss-image.ch / Photo by Remy Steinegger
(Wikipediaより転載(2011/11/01))
http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Naoto_Kan_cropped_3_Naoto_Kan_2_20110129.jpg



Wikipediaより転載(2011/11/01)
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:JohnStuartMill.jpg>

J・S ミル (1806-73)
行為は幸福を増す程度に比例して正しく、
幸福の逆を産む程度に比例して誤っている。
幸福は快楽を、そして苦痛の不在を意味し、
不幸とは苦痛を、そして快楽の喪失を意味する。

功利主義



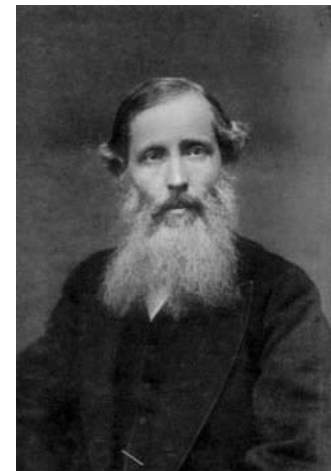
功利主義の特徴

- 帰結主義(consequentialism)
- 幸福主義(welfarism)
 - 快苦
 - 選好充足
(preference-satisfaction)
 - 客観リスト
- 総和主義(sum-ranking)
- 公平性、不偏性(impartiality)

公平性(impartiality)

- ▶ 各人を一人として数え、誰も一人以上とは数えない
(each person is to *count* for one and *no one* for *more than one*): Bentham
- ▶ 宇宙の視点(from the point of the universe):
Sidgwick

Henry Sidgwick
(1838–1900)



Wikipediaより転載
http://en.wikipedia.org/wiki/File:Henry_Sidgwick.jpg

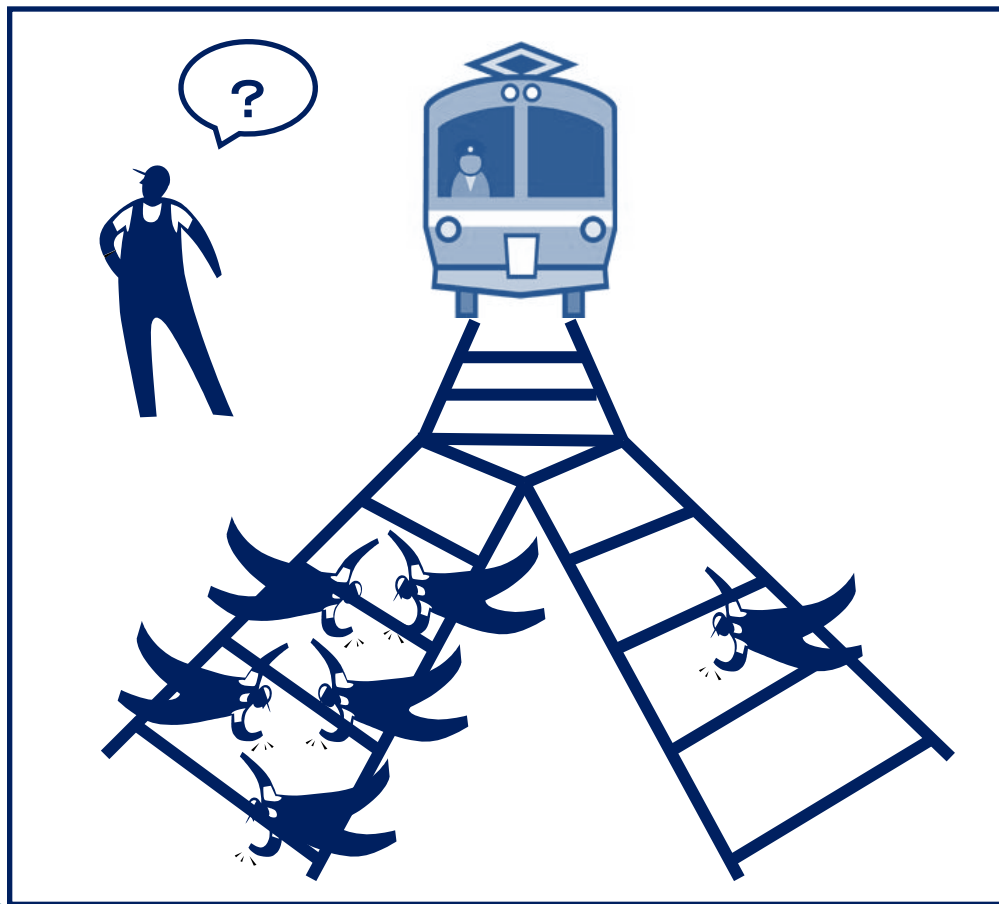
正義の女神はなぜ目隠ししているか

「倫理の不偏性(impartiality)」の実現



Wikipediaより転載
http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Berner_Justitia.jpg

トロリー問題1'

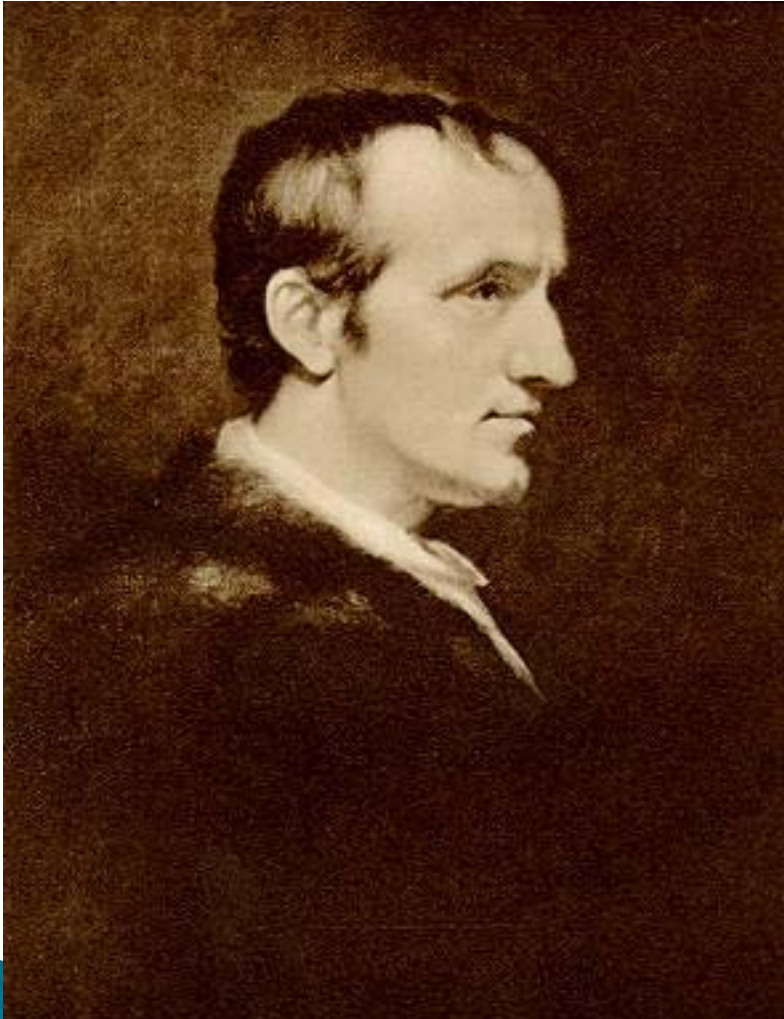


途中までの状況は1と同じで、ただし、別の線路に縛り付けられている一人は、自分の家族である。わたしはスイッチを切り替えるべきか。

- 3. 切り替えるべき
- 4. 切り替えるべきでない



William Godwin (1756–1836)



Enquiry concerning
Political Justice (1793)

思考実験：フェネロン大司教の例

- ▶ 火事の建物から一人しか助け出せない場合に、自分の母親である侍女(メイド)か、名著『テレマコスの冒険』(1699)を書く前のフェネロン大司教のいずれかしか助けられない場合に、どうするか。

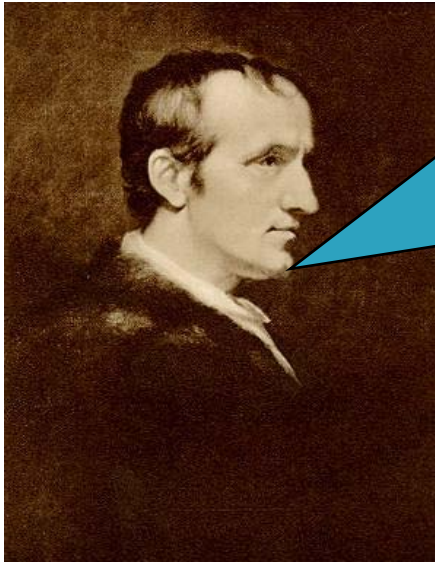


François Fénelon (1651–1715)

Wikipediaより転載(2011/11/01)
http://en.wikipedia.org/wiki/File:Fran%C3%A7ois_de_Salignac_de_la_Mothe-F%C3%A9nelon.PNG



ゴドウィンの答え

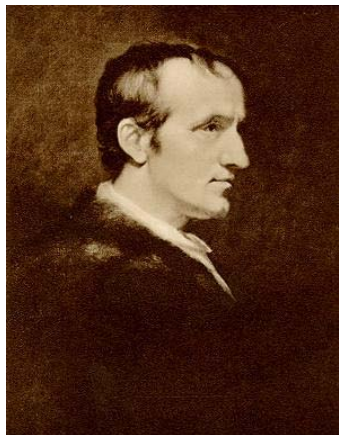


我々は、1人か2人の知覚能力のある者と結びついているだけではなく、社会、国家、そして人類という、ある意味では大きな家族の全体と結びついているのだ。その結果、全体の善に最も寄与する人の命が選ばれるべきだということになる。

Wikimedia Commonsより転載(2011/11/01)
<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:WilliamGodwin.jpg>

ゴドウィンの答え

▶ 個人間の不偏性(impartiality)の原則を重視



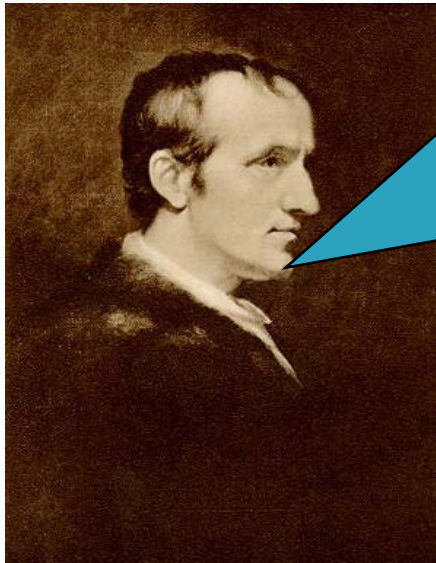
「人を分け隔てしない」(no respecter of persons)のが正義の原理だと述べ、侍女が自分であろうが家族であろうが、公共の功利性の観点から迷わずにフェネロンを助けるべきだ

Wikimedia Commonsより転載(2011/11/01)
<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:WilliamGodwin.jpg>

- 自分の身内であるかどうかは道徳的重要性を持たない



ゴドウィンの答え



Wikimedia Commonsより転載(2011/11/01)
<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:WilliamGodwin.jpg>

では仮に、その侍女が私の妻、私の母、あるいは私の恩人だったとしたらどうか、それでも、先に述べた命題の真理はいささかも動じない。フェヌロンの命に侍女の命よりも高い価値があることに変わりはない。そして正義—純粹で混じりけのない正義—は、最も価値あるものを優先する。正義は、たとえ他の者を犠牲にしてもフェヌロンを救えと私に命じる。「私の」という所有代名詞になんのかがあるのか。その中に、不変の真理の決定をひっくり返せるような魔法の仕掛けがあるとでもいうのか。愚か者か淫売、性悪で嘘つきで不誠実、それが私の妻ないしは私の母だったかもしれない。そのとき、その女が私の妻もしくは母であるからといって、いったいどんな結論が出てくるというのか。

公平性批判(情愛の有用性)



Wikipediaより転載
http://en.wikipedia.org/wiki/File:Samuel_Parr_by_George_Dawe.jpg

Samuel Parr
(1747-1825)

おそらく人類の常識と共通の経験に訴える限り、相手が自分の兄弟や父親であるという事情には、かの哲学者殿が示した例においてさえ、なお重要な意味があるだろう。ところで、父親が狂人でも放蕩者でもなかったとしたら、どうなのか。そのときは、少なくとも、相手が私の父親だということは重要な意味を持ってくるのではないか。その人と私との関係を思えば、親愛の情が沸き上がったり、その人によかれという行為を誘ったりしないというのか。
.....「私の」という所有代名詞は、私の信ずる限り、人類の感情においても義務においても、常にとても大きいものなのだ。



- ▶ 争点:「私の」というのはどれほどの道徳的重要性を持つのか？

臓器移植：レシピエントの指定を認めるか？

- ▶ 都内の某S病院で脳死患者が発生
 - 60歳代男性
 - 脳死臓器移植を希望するドナーカード所持(腎臓のみ)
 - ドナーは生前に「親族に腎臓を提供したい」と家族に話し、家族も親族以外への提供には同意できないと主張
 - 指名された親族二人は待機リストに未登録



臓器移植：レシピエントの指定を認めるか？

- ▶ 問 今後、このようなレシピエントの指定を認めるべきかどうか、メリットとデメリットをよく検討した上で、次の三つの選択肢の中から一つを結論を出してください。
 - (1)レシピエントの指定を自由に認める
 - (2)レシピエントの指定は親族・友人など身近な者に限って認める
 - (3)レシピエントの指定は一切認めない
- ▶ 臓器移植法には明示的規定なし
 - ただし、第二条の基本的理念には、(1)ドナーの生前の意思が尊重されるべきこと、(4)臓器移植の機会が公平に与えられるべきことが謳われている

臓器提供者が移植を受ける者を 指定することについて

	該当 者数	自由に指定 できるように すべき	身近な者などに 限った上で、自 由に指定できる ようにすべき	自由に指定で きるようにする べきではない	その 他	わから ない
	人	%	%	%	%	%
平成14年 7月調査	2,100	27.5	21.2	26.3	1.4	23.6
平成16年 8月調査	2,125	23.2	28.1	31.1	0.7	16.9
平成18年 11月調査	1,727	21.8	30.9	30.8	1.4	15.0
平成20年 9月調査	1,770	25.4	29.1	33.2	1.0	11.3

親族への優先提供が行われる場合

以下の3つの要件をすべて満たす必要があります。

ご本人(15歳以上の方)が臓器を提供する意思表示に併せて、親族への優先提供の意思を書面により表示している。

臓器提供の際、親族(配偶者^{※1}、子ども^{※2}、父母^{※2})が移植希望登録をしている。

医学的な条件(適合条件)を満たしている。

※1 婚姻届を出している方です。事実婚の方は含みません。

※2 実の親子のほか、特別養子縁組による養子及び養父母を含みます。

親族優先提供についての留意事項

医学的な条件などにより移植の対象となる親族がいない場合は、親族以外の方への移植が行われます。

優先提供する親族の方を指定(名前を記載)した場合は、その方を含めた親族全体への優先提供意思として取り扱います。

「〇〇さんだけにしか提供したくない」という提供先を限定する意思表示があった場合には、親族の方も含め、臓器提供が行われません。

親族提供を目的とした自殺を防ぐため、自殺した方からの親族への優先提供は行われません。



出典： 社団法人日本臓器移植ネットワーク

『臓器移植意思表示カードの書き方』

<http://www.jotnw.or.jp/donation/method.html>

3. 功利主義と公平性の問題(2)



「功利主義は直観に反する」

大前提：直観に反する道徳理論は受け入れられない。

小前提：功利主義は、直観に反する道徳理論である。

———

結論：功利主義は受け入れられない。



「功利主義は直観に反する」に対する 功利主義者の応答

1. 「それがどうした？」ーースマート

- 「新聞の投書欄を読めばすぐわかるように、通常の人々が混乱していることは十分にありうる…。哲学者は問題をより合理的な仕方で検討すべき」J.J.C. Smart

2. より洗練された理論へーへア



Mary Wollstonecraft (1759–1797)

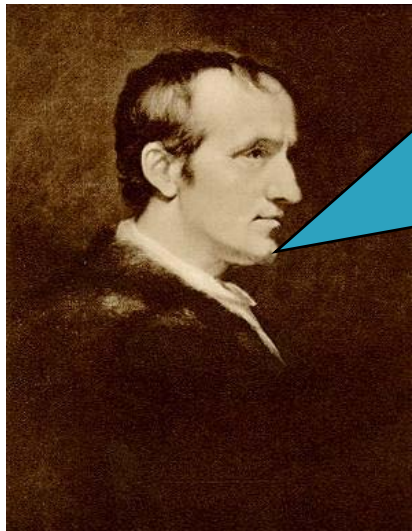


A Vindication of the Rights of Women (1792)

Wikipediaより転載
<http://en.wikipedia.org/wiki/File:Marywollstonecraft.jpg>



ゴドウィンの結婚観



Wikimedia Commonsより転載(2011/11/01)
<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:WilliamGodwin.jpg>

ヨーロッパの国々の習慣では、無思慮でロマンチックな若い男女がくっつき、何度かデートし、あらゆる幻想に囚われた状態で、一生涯ともに生きることを誓う。その結果どうなるかというと、ほとんどすべてのケースで、自分がだまされたことに気づくのだ。・・・結婚制度というのは詐欺の制度である。・・・われわれは過ちに気づいたらすぐに正すべきなのに、過ちを大事にするようにと教わる。徳や価値あるものをたゆむことなく探究すべきなのに、これ以上の探究は差し控え、最も魅力的で尊敬に値する対象に対して目をつむるようにと教わる。結婚は・・・法律の中でも最悪の法律だ。



Mary Wollstonecraft (1759–1797)



Wikipediaより転載
<http://en.wikipedia.org/wiki/File:Marywollstonecraft.jpg>

Mary Wollstonecraft
Godwin (1797-1851)



Wikipediaより転載
<http://en.wikipedia.org/wiki/File:RothwellMaryShelley.jpg>

Percy Bysshe
Shelley (1792-1822)

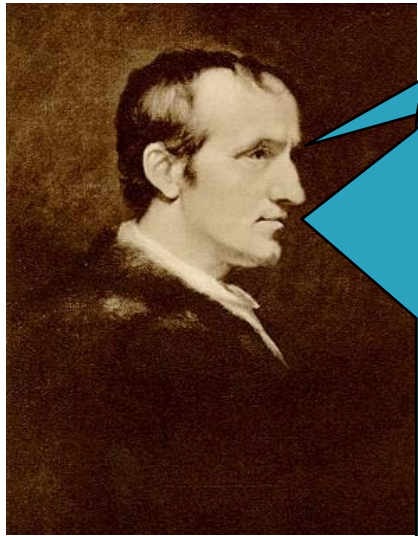


Wikipediaより転載
http://en.wikipedia.org/wiki/File:Percy_Bysshe_Shelley_by_Alfred_Clint.jpg



ゴドウィンの答え2

.....。

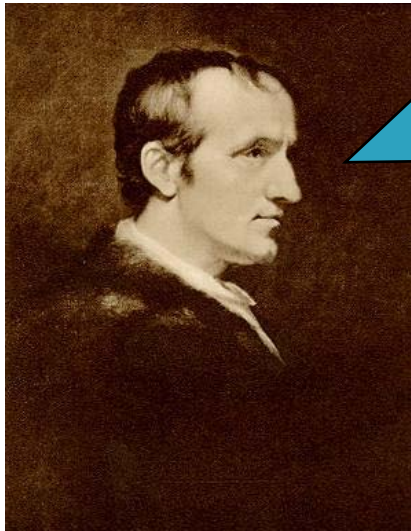


きわめて親密で、その人の幸せや思いが私たち自身の幸せや思いと分かち難く結びついている、そのような人々に対して最も強い関心を抱いてはならないと言われても、それは不可能というものである。本物の知恵であれば、個人的な愛情の絆を持つようにと説くだろう。なぜなら、そうした絆を持つとき、我々の心は、それをはぎ取られたときとは比べものにならないほど、生命が隅々にいきわたって、生き生きとした状態に保たれるのだから。そして、人が生きた存在であることは、レンガや石としてあるよりも素晴らしいことである。

Wikimedia Commonsより転載(2011/11/01)
<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:WilliamGodwin.jpg>



ゴドウィンの答え2: 制御された情愛



Wikimedia Commonsより転載(2011/11/01)
<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:WilliamGodwin.jpg>

私は自分の子の福利に気を配らざるをえない。何故なら、他人に対しては、直接その利益になるように行動できない場合でも、我が子に対してなら快と利益を与えることができるからである。私は我が子の性格と我が子に必要なものを誰よりもよく知っている。……自分の子のために懸命になっている父親に向かって、抽象的な効用の原理を常々念頭に置くようになどと要求したりはしない。ただ、私が言いたいのは、子の利益を追求する父親の行為は、それが抽象的な効用の原理と適合する程度までなら有徳であるが、それ以上であってはならないということである。

→身近な者への偏愛(partiality)は、人間心理からして認めざるを得ず、またある程度までは功利主義的にも望ましいものだとして、偏愛を公平性の視点から正当化

R.M. Hareの二層功利主義

- ▶ 道徳的思考を二層(two-level)に分ける
 - 直観レベル (intuitive level)
 - 一般的な倫理原則(「約束を守る」「身内を大事にする」等)を用いて個別的事例について判断
 - 直観は通常の状態に対応するよう調整されている
 - 批判レベル (critical level)
 - 直観レベルでは解決がつかない状況(モラルジレンマ)や、新しい倫理原則を作る必要がある場合
 - このレベルではヘアは功利主義を採用



二層理論的な思考 at work

- ▶ 「普段の生活では、これまでの経験に基づいてどう行動すればよいか判断できる。だが、災害など非常事態の場合は、これまでの行動指針が役に立たず、臨機応変に対応するよう求められる」
（「災害デマ、惑わず回さず」朝日2011年3月24日）





二層理論と公平性

確かに、それは抑制された公平主義であることは否めない。抑制された公平主義は、毎日の日常生活の中では、公平主義者であることを我々に要求するわけではない。だから、厳密に言えば、この公平主義が、自分たちの母親や父親ではなくフェヌロンを救うようにと我々に要求するとは言えない。そんなことができる人であろうとすれば、大切な価値あるものをあまりにも多く手離さなければならなくなるだろう。それでも、救助する者が下さなければならない選択だけに着目するなら、このタイプの帰結主義では、もしフェヌロンが助けられるならば、それが最善だと主張されるだろう。

この場合、批判レベルで考えると、その行為だけを切り出せば、フェネロンを助けるべき。しかし、フェネロンを助けることを選ぶ人間を育てることは、コストがかかりすぎるので、人々が身内を助けても非難はできない。



Denise Applewhite/Princeton University

「功利主義は直観に反する」

大前提：直観に反する道徳理論は受け入れられない。

小前提：功利主義は、直観に反する道徳理論である。

———

結論：功利主義は受け入れられない。



直観と倫理理論

- ▶ 現代の規範倫理学では、直観と理論の関係を考えることが非常に大切
- ▶ 理論＞直観？ 理論＜直観？
- ▶ 流行の発想は、反省的均衡 (reflective equilibrium)
 - 直観(「熟慮された判断(considered judgments)」)と、理論の整合性(coherence)を取る

反省的均衡に対する功利主義の批判

彼らがたどり着いた「平衡状態(equilibrium)」は、偏見から生み出された力の間での釣り合いにすぎないのかもしれない、どれほどの反省を費やしてもそれを道徳性の堅固な基礎とすることはできない。(ヘア、『道徳的に考えること』)

R.M. Hare

著作権の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

直観レベルの思考は道徳的に考えるさいに重要だが、倫理的直観を理論の基礎にすることはできない

祖父たちの持っていた偏見を批判するのは我々にとって容易なことである。そうした偏見からは我々の父親自身が自由になっているのである。これよりもずっと困難なのは、我々自身の見解から距離をおいて、我々の持っている信念と価値の内に潜んでいる偏見を感情に囚われることなく捜し出せるようになることである。

(ピーター・シンガー、『実践の倫理』)



おわりに：功利主義の魅力

- ▶ 倫理学・政治哲学のフロンティア
 - 動物の解放
 - グローバルジャスティス（貧困国の援助義務）
 - 人口計画
 - ...
- ▶ 功利主義は「直観に反する」主張を提起し続けている
 - 「われわれとしては、どこへでも議論が風のようにぼくたちを運んで行くほうへと、進んで行かなければならない」
 - Life unexamined is not worth living.

文献案内

- ▶ 児玉聡、『功利と直観』、勁草書房、2010年
- ▶ 赤林朗編、『入門・医療倫理I』、勁草書房、2005年
- ▶ トニー・ホープ、『医療倫理』、勁草書房、2007年
- ▶ ピーター・シンガー、『実践の倫理』、昭和堂、1999年
- ▶ ピーター・シンガー、『人命の脱神聖化』、晃陽書房、2007年
- ▶ Singer, P. (2005). Ethics and Intuitions. *Journal of Ethics*, 9: 331–52.
- ▶ R.M.ヘア、『道徳的に考えること』、勁草書房、1994年